

金剛寶戒寺便

<https://www.houkai-ji.jp>

令和七年六月一日発行 第二三五号

檀信徒の皆さま、こんにちは。今年は沖縄よりも先に南九州が梅雨入りをしました。大分県も間もなくだと思えますが、清々しい早朝に六方拝を続けています。お便りをきつかけに始めてくださった方がいると聞き、とても嬉しく思っています。

さて、五月の法話会では「運命を拓く言葉」というテーマでお話をいたしました。「運命」と聞くと、私たちはしばしばそれを「変えられないもの」と捉えがちですが、仏教では運命とは「因果の法則」に基づくものであり、日々の行いによって未来を形作ることができると説きます。つまり、運命は私たち自身の選択と行動によって、切り拓いていけるのです。

人生を航海に例えるなら、荒波や嵐（困難）は避けがたいものですが、舵を握るのは私たち自身です。どの方向に進むのかを決めるのは、私たちの「心」であり、「言葉」であり、「行動」です。

インド独立運動の父、ガンジーは言います。「思考が変われば言葉も変わる。言葉が変われば行動も変わる。行動と習慣が変われば人格も変わる。人格が変われば運命も変わる」私たちの内側の変化が、外側の現実、そして

最終的には運命までも変えていく、という力強いメッセージです。

お釈迦様の言葉（ダンマパダ）は、さらに深くこの関係性を指摘しています。

「ものごとは心にもとづき、心を主とし、心によって作り出される。もし人が清らかな心で話し、行動するならば、その人には福樂が付き従う。あたかも身体から、離れることのない影のように。」（中村元 訳）

私たちの心の状態が、言葉や行動を通して、良い結果にも悪い結果にも繋がっていく、ということが明確に示されています。

では、その最初の段階である「思考（こころ）」を、私たちはどのように変えていけば良いのでしょうか？一般的に、「思考（こころ）↓言葉↓行動」という流れがあると考えられています。

真言密教では「身・口・意」の調和を大切にします。中でも「口＝言葉」は、心と行動に深い影響を与えます。日々何気なく使う言葉が、私たちの世界の捉え方を形作り、感情や思考の枠組みをも左右します。

肯定的な言葉は希望や自信を育み、否定的な言葉は不安や萎縮を引き起こします。特に、自分自身にかける言葉（自己対話）は、自己肯定感に直結します。「私はできる」「ありがとう」「大丈夫」といった言葉を意識的に使うことが、心の姿勢を整え、良き運命と呼び込む力となるのです。

言葉は種のようなもの。私たちが日々どのような言葉を撒くかによって、未来に咲く花も変わっていきます。最後に、運命を拓く「言葉」の一例をご紹介します。

「今日一日、怒らず、恐れず、悲しまず、正直、親切、愉快に。力と勇気と信念をもつて自己の人生に対する責務を果たし、常に平和と愛とを失わざる立派な人間となる事をお誓い致します。」（中村天風 運命を拓くより）

また、否定的な言葉（不平、不満、愚痴など）を使わないことは、運命を拓くことの前提としてとても大切です。お話に興味がありましたら是非、法話会にもご参加ください。

法話の会

日時 七月八日（火）十四時より

演題 「心のルーツ解放レター」

*書きなれた筆記用具をご持参ください

写経の会

日時 七月二十七日（日）十四時より

会費 千円

会場 金剛宝戒寺 檀信徒会館

五月十七日に金剛宝戒寺で普光寺様のご息さまの「仏前結婚式」を行いました。お葬式で言うところの「導師」は結婚式では「戒師」と呼ばれますが、そちらも務めさせてさせて頂きました。天気予報は前日まで雨マークでしたが不思議なことに快晴となり、お二人の門出を祝福している様に思えました。